

すくわくプログラム活動報告書

ミルキーホーム南大泉園

日にち	クラス	テーマ(テーマ設定理由)
2025年 7月 17日(木)	ゆり組 11名	3種のとうもろこしの食べ比べ (夏野菜の栽培でとうもろこしを栽培し、うまいかなかった事から興味を持った為)
活動スケジュール・実施内容 当園では毎年幼児クラスが園庭隅の畑で野菜を育てている。今年度5歳児クラスは5月よりとうもろこしの栽培を始めた。図鑑で育て方を調べ、苗を植え、水をやってきたが、思ったように育たず、7月現在も実がなっていない。実施日前日、届いたとうもろこしの大きさや量に驚くとともに、翌日の食べ比べへの期待が高まった様子。当日はミールケア担当者(給食委託業者)を招き実施。初めにとうもろこしから想像される料理、調理法などを考え意見を出し合った。とうもろこしの品種の数や今日食べ比べる3種類の名前や色の特徴を知ったあと、皮むきを行う。毎年、食育活動の一環で、全クラスとうもろこしの皮むきを実施していることもあり、皮むき経験はあったものの、白いとうもろこしは初めてだった為、味を想像し楽しんでいった。給食室にて茹でてもらった後、午睡明けのおやつ時間に実食。ホットプレートを用いて、焼きとうもろこしにすることに。プレートから聞こえるわずかな焼き音に耳を傾けたりとうもろこしの甘い匂いを嗅ぎながら焼けるのを見守る。焼き目が付きだし、はけでしょうゆを塗ると、香ばしい匂いと立ち上る煙に一層盛り上がっていた。3種類のわずかな甘味の違いに気づき、周囲と好みの味を伝え合いながら、一口ずつ噛みしめるように食べていた。		
実施結果 とうもろこしから想像される料理で意見を出し合うと、「ラーメンに乗ってる」、「バーベキューで焼いて食べる」、「ポップコーンが作れる」等、体験からの発言が聞かれた。品種の数を『60』と聞いて、「まあまあ多い」と身近な分量と比較したり、黄色の微妙な濃さの違いに気づき、『山吹色』と言い分けたりと、これまでの環境で獲得してきた数や色への表現の育ちが感じられた。同時に、図鑑にある黒い実のとうもろこしの味を想像し合い、「コーラ味じゃない?」、「苦いかもしれない」と、見たことのないものへ豊かな想像力からの発言があった。剥いた皮を使って遊ぶと、初めは絵や模様を描くだけだったものが、魚釣り、風鈴、船と徐々に立体的な作品に変わっていった。皮の繊維があることで描きにくいという感覚から繊維を活かした作品づくりに変化していったことも興味深かった。		
評価・反省 とうもろこしの皮むきは園で毎年実施してきた食育活動であった為、子どもたちにも馴染みがあるものだった。特に今年度はクラスで相談し、畑で育ててきたこともあって前日から参加に意欲的な姿が見られた。当日は、外部の担当者主導だったことで緊張感を持つてのスタートであったが、名前からとうもろこしの色を想像したり、種類の多さを知ったりする中で、探求心が次第に膨らみ、担当者の言葉を興味深そうに聞いていた。食す際には、一粒ずつ味わったり、一気にかぶりついてその甘さを再認識したりと各々が楽しんでいった。		
準備物・環境設定 ・ホットプレート2台 ・トング ・3種のとうもろこし ・ブルーシート ・机 ・椅子		

すくわくプログラム活動報告書

ミルキーホーム南大泉園

日にち	クラス	テーマ(テーマ設定理由)
2025.10.1(水)	2歳児クラス(12名) 3歳児クラス(14名) 4歳児クラス(16名) 5歳児クラス(12名)	食育劇「りょうたくんと野菜博士の大冒険！野菜星を救え」 (各クラスの夏野菜栽培の締めとして、何でも食べる大切さを伝える為)
活動スケジュール・実施内容 (8:00園到着 搬入 舞台設置 音響設置・8:30リハーサル・9:45会場・10:00開演・11:00終演・11:30反省会) 8:00に劇団員到着し、準備も問題なくすみりハーサルへ。会場入りした子どもたちは期待に胸を躍らせる。開幕し、司会の言葉に耳を傾け真剣な面持ちで集中してきくことが出来ていた。 夏に各々のクラスで栽培した野菜を思い出しながら、クラスでの子ども会議で上がってきた疑問を問いにし、人形「とまっぴー」や、「野菜博士」へ年長の代表者2名が前に出て質問。「メロンとスイカはなんで野菜なの?」「トマトに色んな色があるのはなんで?」問いに関して、子どもたちと一緒に考える方法で答えに導いていた。野菜博士からの「トマトにはどんな色があるか知っている人?」の問いに、「緑!!」などと応える姿もあった。食育劇がすすみ、怪物「ベジゴラス」が野菜星の野菜を荒らしてしまう場面では、感情移入して泣く子もいたが、主人公りょうたくんが本物の野菜を食べ、ベジゴラスを改心させる姿を見て、笑顔になる様子がみられた。最後は野菜体操で体を動かし終了。今回のお芝居で強いメッセージ性があった「食べ物を大切に」という思いは、しっかり実演されていた。		
実施結果 食育劇後、各クラスで様々な感想が出た。「人参をポリポリ食べてて美味しそうだった」「ナスを保育園で育てたけど、りょうたくんが美味しそうに食べていたからまた食べたい」など、本物の野菜を子どもたちの目の前で食べていたのは印象が強かった様子。 また、年長組では、子ども同士質問大会が始まり、「いちごは野菜でしょうか、果物でしょうか?」「それはなぜでしょうか」の振り返りや、「たけのこってなんで山に生えてるの?」「卵は野菜?果物?」など、新たな探求が始まっていた。 食育劇の様子を、お迎えに来た保護者へ嬉しそうに話す姿も多々見られた。		
評価・反省 ・泣く子がいたのでベジゴラス等の登場を事前に周知すればよかった ・2歳児には、子どもたちからの質問に対しての説明が長かったように感じる ・延期になる場合の食育がある場合は、事前にその可能性があることを周知しておくべきであった ・発達障がい児など、特性のある子がパニックを起こすことを事前に予測できたので、対応策がもっと考えられた ・本日の活動前に、野菜のエプロンシアターなどで気持ちを盛り上げて興味をひく導入をしてもよかった		
準備物・環境設定 ・パーティション ・机4台 ・マイク ・観覧席		